

中長期目標  
(学校ビジョン)

聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。

めざす子ども像

【知】学び合う子

【徳】かなえる子

【体】やりぬく子

今年度の基本方針

<基本方針>

1. 一人一人のきこえに応じた学びの充実

2. 子どもたちが主役となり「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業づくり・保育づくり

3. 自分のきこえを知る・自立活動の充実

4. 自分のよさを知り、のばす、夢に向かう取り組みの推進

5. からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活の中に位置づける

<学校の合い言葉>「鳥聾愛」

<学部テーマ>

○幼稚部…思いをことばに

○小学部…レッツ チャレンジ！

○中学部…Let's Enjoy

○高等部…夢をつかめ！

○支援部…めざせ！みんなの頼れるサポーター！！

| 年 度 当 初                                                                               |                                                         |                                                                                                         |                                                                             |                                                                                                                  | 評 価 結 果 （ ）月 |    |      |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----|------|
| 評価項目                                                                                  | 評価の具体項目                                                 | 現状                                                                                                      | 目標(年度末の目指す姿)                                                                | 目標達成のための方策                                                                                                       | 経過・達成状況      | 評価 | 改善方策 |
| [知]学び合う子<br><br>1. 社会で生き抜く力を身につける<br>①一人一人のきこえに応じた学びの充実<br>②「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業づくり | (幼)<br>・体験、経験の言語化<br>・朝の会のトピックスや絵日記発表                   | ・自分の思いを伝えたい気持ちがある。<br>・きこえにくさにより情報量が少ない。                                                                | 身振りや手話、キューサイン、音声などででのびのびと自分の思いや考えを伝えようとしている。                                | ・子どもの目線になり、気持ちに寄り添い、様子や気持ちにことばを添えたり、手本を示したりする。<br>・身近な自然現象や事象をトピックスとして取り上げことばと繋げたり、絵日記発表で思いをことばにする手本を示したりする。     |              |    |      |
|                                                                                       | (小)<br>・体験的な学習<br>・聞こえや実態に応じた学習指導の充実                    | ・聞こえや発達段階に個人差があるが、意欲的に学ぼうとしている。<br>・考えて解く・まとめる等の学習では、あきらめてしまうことがある。                                     | 相手に分かるように自分の思いや考えを伝えようとしている。                                                | ・体験的な学習の機会を多く設定し、ことばの土台を育てながら、思いや考えを発表する場を設ける。<br>・学部研究を通して、実態把握を行い、児童に合った目標設定、授業作りを行う。                          |              |    |      |
|                                                                                       | (中)<br>・学習規律<br>・目標設定と振り返り<br>・話し合い活動                   | ・ルール、やり方が明示してあると取り組みやすい。<br>・学校生活を楽しみにしている。<br>・思いを言語化することに課題がある。                                       | 自分の目標をもって学習に取り組んでいる。                                                        | 話し合ったり、協力し合ったりする体験の工夫をする。（各種行事の工夫）                                                                               |              |    |      |
|                                                                                       | (高)<br>語句を丁寧に押さえ、生徒の思考や発言を大切にする授業づくり                    | ・日々の授業に真面目に取り組んでいる。<br>・一人一台端末を日常的に使用している。<br>・言語面やコミュニケーション面でつまずきがある。                                  | 自分の考えを積極的に発言している。                                                           | 一人一人の生徒の実態を踏まえた分かりやすい授業づくりと、生徒が思考し発言する機会の充実を図る。                                                                  |              |    |      |
|                                                                                       | (教務部)<br>円滑な学習活動、行事の遂行                                  | ・素直な子どもが多い一方、消極的な面もある。思いを伝える経験が積み上がってきた。<br>・教師は個別の教育支援計画等に基づいて指導しているが、効果的な活用には至っていない面がある。              | 子どもが「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業が展開され、アンケートで「学習がわかる」95%「授業が楽しい」90%と答える児童生徒が増えている。 | ・各教科、各学部間の連絡調整を密に行う。<br>・定期的に教科会をもち、教科指導の充実を図る。<br>・個別の指導計画の記入のポイントを周知し、計画や評価が指導に生かせるようにする。                      |              |    |      |
|                                                                                       | (教育研究部)<br>幼児児童生徒の語彙の習得を目指す～「鳥聾スタンダード」の活用とアセスメントに基づく指導～ | 「鳥聾スタンダード」による授業作りを行っており、子どもの伝え合う力が向上した。さらに子どもの語彙力を向上するためには「鳥聾スタンダード」の一層の活用と、アセスメントによる実態把握、一貫した指導が必要である。 | 「鳥聾スタンダード」を効果的に活用するとともに、アセスメントに基づく一貫した指導を教師が協力して行い、語彙の習得に向けて取り組んでいる。        | ・学部研究会を定期的に関き、語彙の習得に向けた指導・支援の検討、「鳥聾スタンダード」重点項目の設定、授業のふり返りを行う。<br>・外部講師を招聘し、指導の改善を行う。<br>・参観週間を設けて授業公開し、授業研究を進める。 |              |    |      |
|                                                                                       | (情報部)<br>子どもの学びを深めるためのICT活用                             | 各教師がタブレットやアプリ等を効果的に使う授業が増えてきたが、優れた実践を校内で共有したり、取り入れたりする事が少ない。                                            | 「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において「ICT機器を計画的に活用している」と答える教職員が8割以上である。              | ・ICT機器とアプリケーションの使い方・活用法に関する研修やオンラインやオンデマンドの活用に関する研修を定期的に催す。<br>・教職員同士で情報共有できる場を設け、校内のICT活用の促進を図る。                |              |    |      |

| 年 度 当 初                                                                      |                                                      |                                                                                          |                                                                                                      |                                                                                                             | 評 価 結 果 ( )月 |    |      |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----|------|
| 評価項目                                                                         | 評価の具体項目                                              | 現状                                                                                       | 目標(年度末の目指す姿)                                                                                         | 目標達成のための方策                                                                                                  | 経過・達成状況      | 評価 | 改善方策 |
| [徳]かなえる子<br><br>2. こうなりたい自分・夢をもつ<br>③自分のきこえを知る<br>④自分のよさを知り、のばす、夢に向かう取り組みの推進 | (幼)<br>・やりとりを楽しみながら共に遊ぶ活動<br>・友達へのあこがれや、手本になろうとする気持ち | ・好きな遊びがある。<br>・友達や他者と関わることを好む。<br>・気持ちを伝える言葉や手段が少ない。                                     | 楽しく遊んだり活動したりする中で、自分から友達に関わろうとし、自分の良さや友達の良さ、一緒に活動する良さを知る。                                             | 友達に伝えられた、友達の気持ちがわかったという達成感や満足感が感じられるように、伝えたいことの身振りや手話、キューサイン等の手本を示し模倣を促す。                                   |              |    |      |
|                                                                              | (小)<br>・友達や教師と関わろうとする姿の育成<br>・自己肯定感の向上               | ・友達や教師と関わりたい気持ちを持っている。<br>・他者との関わりが限定されがちで、自分のよさに気づいていない子どもが多い。                          | 友達や教師との関わりを楽しみ、自分のよさに気づいている。                                                                         | ・コンクールや検定等に挑戦する。<br>・教師や友達から自分のよさを伝えてもらう機会を設定する。<br>・遊びや集会のゲームを友達と相談して決める等の機会を設定する。                         |              |    |      |
|                                                                              | (中)<br>・自分を知る<br>・進路学習<br>・進路選択                      | ・素直で、互いを思う気持ちを持っている。<br>・自分の良さや課題についてあまり把握していない。<br>・将来に対するイメージをあまり持っていない。               | 自分の良さを知るとともに、相手の良さや思いを受け止め、自分の思いを伝えている。                                                              | 学年に応じた進路の充実を図る。(職場体験学習や高校見学などの活用)                                                                           |              |    |      |
|                                                                              | (高)<br>一人一人の生徒の実態を踏まえた目標設定と計画的な進路学習の実施               | ・自己肯定感が育ちつつある。<br>・地域(学校外)や卒業後の生活に意識が向いてきた。<br>・自主的・計画的に学習することが苦手である。                    | 進路実現に向け、自主的・計画的に取り組んでいる。                                                                             | 進路実現に向けた目標や活動の明確化と継続的な進路指導により生徒の自主的・計画的な取組を促進する。                                                            |              |    |      |
|                                                                              | (支)<br>・相談者が安心して頼れる支援体制・支援内容の充実<br>・センター的機能の発信の充実    | ・子ども同士、保護者同士がつながり、知り合い相談し合う機会が年1～3回と留まっている。<br>・関係機関等へのに対して本校の取組発信が十分とはいえない。             | ・子ども同士・保護者同士がつながる機会として、合同活動及び保護者研修会を年7回以上実施する。<br>・相談者のニーズに応じた迅速な対応や手立てを行うことができる。                    | ・合同活動及び保護者研修会を二ヶ月に1～2回の頻度で計画的に設定し、参加を募る。<br>・関係機関に啓発するためのポスター(リーフレット)、HP(支援部ページ)を作成し、発信する。                  |              |    |      |
|                                                                              | (自立活動部)<br>自立活動の指導を円滑かつ効果的に行うための教職員研修                | ・発音、言語、障がい理解等に関する教職員研修を行っている。昨年度から、すぐに授業に生かせる研修になることを目標に、研修を計画、実施している。                   | ・アンケートで「授業や子どもとのコミュニケーションに活かせる研修である」と回答した教職員が、8割以上である。                                               | ・全体研修会を年1回、言語または発音に関する研修会をそれぞれ年4回実施する。事後アンケートを実施し、目標の達成度把握と研修の改善に生かす。<br>・「コミュニケーション手段について」の研修動画を作成し、活用を促す。 |              |    |      |
|                                                                              | (進路指導部)<br>・ニーズに合った情報提供<br>・将来働く上で必要な力の定着            | 進路に関するニーズが多様であり、体験学習の充実やキャリアパスポートの活用と学部間連携が必要である。                                        | ・卒業後や次年度に向け、将来働くために必要な力を身につけるための指導や支援を行っている。<br>・キャリア教育の充実に向け、キャリアパスポートを活用するなどして発達年齢に応じたキャリア形成をしている。 | ・子どもや保護者の考えを聞く機会を設けて実態把握をし、見学先や実習先を決定していく。<br>・進路学習や体験学習の成果や課題などを自身で振り返ったり保護者と共有したりするためにキャリアパスポートの活用を進める。   |              |    |      |
|                                                                              | (総務部)<br>・幼児児童生徒の頑張りや学校の魅力の発信                        | ・子どもは素直な一方で受身的な面があり、自己肯定感の育成に取り組んでいる。<br>・子どもの数の減少に伴い、学校の在籍数も減っている。学校の魅力を一層発信する取組が必要である。 | ・子どもが自分や友達の良さ、頑張りを互いに認め、たたえ合う姿がある。<br>・地域からの入学希望者が各学部にいる。                                            | ・表彰伝達や学校通信、掲示物等の充実を図り、子どもが自分の良さや頑張りに気づく機会を増やす。<br>・学校公開の内容や学校通信の発送方法を見直し、効果的な発信となるよう工夫する。                   |              |    |      |

| 年 度 当 初                                                                    |                                                                |                                                                                                        |                                                             |                                                                                                          | 評 価 結 果 （ ）月 |    |      |
|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----|------|
| 評価項目                                                                       | 評価の具体項目                                                        | 現状                                                                                                     | 目標(年度末の目指す姿)                                                | 目標達成のための方策                                                                                               | 経過・達成状況      | 評価 | 改善方策 |
| [体]やりぬく子<br><br>3. あきらめない体力・気力<br>⑤からだを動かす楽しさを<br>知り、からだづくりを生活<br>の中に位置づける | (幼)<br>・基本的生活習慣の自立<br>・安全に身体を動かす機会<br>の設定                      | ・身体を動かすことが好きである。<br>・身体の機能や体力、運動経験に差がある。                                                               | いろいろな遊びや活動の中で自分からすすんで参加し、のびのびと身体を動かす。                       | ・「歌と体操」や「おはようタイム」など毎日取り組む時間帯に身体の動きを意識する活動や身体を動かす活動を設定し、継続して身体作りに取り組む。<br>・外部講師による専門的な指導（チャレキング）の機会を設ける。  |              |    |      |
|                                                                            | (小)<br>・体力の維持・向上<br>・動きの経験の拡大                                  | ・体を動かすことを好む子どもが多い。<br>・生活経験の少なさから遊びや活動が広がりにくい。                                                         | 体を動かす楽しさを知り、進んで体を動かそうとしている。                                 | 中間休憩のサーキット活動や外部講師の指導の機会（ちゃれきんぐ、ダンス等）を設定し、様々な動きの経験、体力の維持向上を図る。                                            |              |    |      |
|                                                                            | (中)<br>・基本的生活習慣の定着<br>(挨拶・服装・言葉遣い)<br>・基礎体力の向上<br>(運動への積極的な参加) | ・友だちとの活動を楽しむことができる。<br>・基本的生活習慣の定着に課題がある。<br>・学習に向かう基礎的な体力が充分ではない。                                     | 基本的生活習慣や学習に向かう基礎体力を身につけている生徒                                | 基本的生活習慣（挨拶・身だしなみ・場に相応しい応答等）の定着と基礎的な体力の向上を図る。                                                             |              |    |      |
|                                                                            | (高)<br>生徒の挨拶等への意識向上と習慣化                                        | ・部活動にやりがいを持ち、積極的に体を動かすことを楽しみ、スポーツを楽しむ、積極的に大会へ参加している。<br>・挨拶や返事、提出物等が習慣化していない生徒が多い。                     | 挨拶や返事、提出物等の習慣が身に付いている生徒                                     | 生徒アンケートや日々の生活・学習を通して、挨拶や返事、提出物等への意識向上と習慣化を図る。                                                            |              |    |      |
|                                                                            | (生活安全部)<br>・健康で安全な生活習慣の徹底<br>・健康維持を意識し、体を動かす楽しさを知る活動の設定        | ・運動を楽しむ子どもがいるが、継続な取組にはなりにくく、行事に向けた単発な活動になっている。<br>・学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画をもとに様々な取組を行っているが、日々の実践につながりにくい。 | 進んで体を動かし体力をつけるなど、子どもが健康な生活習慣の大切さを理解し、実践しようとしている。            | ・長期休業の事前・事後指導の充実を図り、生活習慣（生活リズム）の見直しを行う。<br>・全校遠足、駅伝大会など楽しく身体を動かす活動を計画する。<br>・各学部の実態に応じて健康維持を意識した取組を実施する。 |              |    |      |
| 4. 業務改善<br>⑥子どもと向き合う時間を<br>充実するための業務改善                                     | (働き方改革)<br>・業務分担が行われ、適切な業務遂行がなされている。                           | 自分自身の働き方にメリハリをつけ、自己管理の意識が高まってきている。しかし、年度始めや行事前に業務が集中してしまう傾向にある。                                        | ・月４５時間以上の超過勤務者数、年３６０時間以上の超過勤務者数１割未満。<br>・業務支援員の積極的な活用。      | ・毎月２～３回の帰らーデーを設定し、計画的な業務、時間の使い方の意識を高める。<br>・役割分担、業務改善へつなげることができるよう、時間外勤務の理由の聞き取りを行う。                     |              |    |      |
|                                                                            | (円滑な学校運営)<br>・各学部主事主任、分掌部長が活発な意見交換、斬新なアイデアを出せる会議の開催。           | ・行事・研修等で前例の踏襲ではなく子どもたちの状況や学校の方針に応じた提案が多くなっている。しかし、中には、今までの手法にこだわりがあったり、変化を受け入れるのに不安があったりする職員もいる。       | ・各分掌・学部行事等に新しい取り組みが加わり、戦略を意識した活動が考えられており、子どもたち、教職員に成長がみられる。 | ・運営委員会、主事会等の会議の中で、活発に意見を言うことができる雰囲気を作る。                                                                  |              |    |      |

評価基準    A: 十分達成(100%)    B: 概ね達成(80%程度)    C: 変化の兆し(60%程度)    D: まだまだ不十分(40%程度)    E: 目標・方策の見直し(30%以下)